

2017年3月20日

玉川大學教育博物館



目次

展覧会への招待	2
修復の現場から	3
報告	4
資料をご寄贈いただきました	5
開館カレンダー・ 利用案内	6

田端遺跡 1号住居址床面一括出土土器

中奥 口径 25.2cm 高 37.2cm

縄文時代中期 勝坂式最盛期 (藤内I式)

東京都町田市小山町に所在する田端遺跡は、1968年に玉川学園考古学研究会が発掘調査を実施し、縄文時代中期の集落と、後期の墓域・後晩期の環状積石遺構が重層的に見つかりました。写真は、1号住居址の床面直上から共に出土した土器で、住居が使われなくなった際に置き去りにされたものと推定されます(2ページに出土状況写真)。いずれも精巧な文様が施され、残り具合も良好です。手前の小型有孔台付土器は、口縁の一部がわずかに欠けるものの、ほぼ完全な状態で出土しました。脚台内部以外の全面に赤く塗られていたあとがあり、特殊な用途に使われた可能性が考えられます。

展覧会への招待

考古資料展 ―玉川学園考古学研究会の軌跡―

～町田の考古学は玉川学園から始まった～

1967（昭和42）年、「玉川学園考古学研究会」が発足します。学園職員の故浅川利一氏の指導の下、考古学に関心をもつ大学生から小学生までが集う、学園内の校種・年代をまたぐユニークな研究組織でした。研究会は玉川学園が立地し、全国的に見ても遺跡が濃密に分布する町田市周辺が多摩丘陵を主なフィールドに、1960-70年代に旧石器・縄文時代の研究を精力的に進めます。町田を拠点とする研究組織による市内の遺跡調査は、この研究会によって始まったのです。

この研究会は、縄文時代の集落・墓域・環状積石遺構（ストーンサークル）である田端遺跡や、土器捨て場からユニークな形状をしたものを含め多数の土器が発見された御嶽堂遺跡など、行政の対応が十分でない時期に、市内の重要な遺跡の発掘調査をいくつも手掛けました。田端遺跡は、後に東京都の史跡に指定されています。こうした遺跡の出土品が、当館所蔵の考古資料の柱のひとつになっています。

今回、出土品と関連資料を通して、玉川学園考古学研究会の活動の軌跡と、その調査した遺跡を紹介する企画展を開催します。開校以来の前史を経て、研究会がどのように誕生したのか、研究会はどのような組織で、どのように調査研究活動に取り組んだのか。調査した遺跡の主な出土品と、各種の記録類で紹介します。

特に、このたび当館において田端遺跡・御嶽堂遺跡の発掘調査報告書を刊行することができましたので、これを記念して両遺跡を中心にとり上げ、現在は町田市立博物館で保管されている出土品もお借りして、出土資料が一堂に会する形で展示し、調査成果を広くご紹介します。また、研究会の素地となった、玉川学園独自の教育活動である「自由研究」での考古学の取り組みも、あわせて紹介します。

会期中には、講演会、ギャラリートークのほか、玉川学園キャンパス内に所在する遺跡巡りツアー等の関連行事も計画しています。詳細は決定次第、当館ホームページ等でお知らせいたします。

皆様のご来館をお待ちしております。



田端遺跡第1次調査（1968年）
環状積石遺構



田端遺跡第2次調査（1968 - 69年）
1号住居址遺物出土状況



御嶽堂遺跡 発掘調査風景（1969年）

◆会 期 2017年10月16日(月)～12月17日(日)

◆時 間 9:00～17:00（入館は16:30まで） 入館無料

◆会 場 玉川大学教育博物館第2展示室

修復の現場から

「ガスパール・カサド 原智恵子コレクション」のうち、損傷の激しい楽譜を計画的に補修・修復しています。作業を担当されている元国立音楽大学附属図書館の柴谷周子さんに、お仕事について紹介していただきました。

カサドの楽譜から見える演奏家カサド

楽譜という資料

楽譜は演奏者が曲をマスターするまで、何回、何十回もページがめくられ練習が繰り返される。そのため、楽譜の製本は演奏しやすいように作られている。表紙は譜面台に置くために、柔らかく薄い。そして、演奏しながらページをめくるので、開きが良いこと。この使いやすさは破損しやすい構造でもある。

カサドの楽譜の修復

カサドの楽譜をどのように修復するか。演奏によく使われたと思われる楽譜の破損はひどく、補修をしないと利用できないもの、また破損が進行してしまうので早めに処置する必要があるものなど様々な状態である。どのような方法でどこまで修理するかを決めて、優先順位に従い修復を行った。

修復の際に留意する点は、1) 原形を尊重する。必要最低限の修理でオリジナルの形を留める。2) 元の状態に戻せる。取り除くことができる材料を使用する。3) 資料の安定が保てる。長期的な安定が保てる材料（和紙と生麩糊など）を使用する。4) 記録を残す。破損の状態、処置の経過、使用材料を記録しておく。以上の点に注意して修復を始めた。

作業中に気を付けた点を少し。楽譜の破れで一番多い箇所は中綴じの背の下の部分。表紙が薄いいため表紙が破れると、徐々に全ページ破れてくる。また、ページの右下の破れなど、修理のページが多くなる場合、薄い和紙を使用し厚みがでるのを少なくした。

本や楽譜は開きやすくするためにページの紙は縦目で作られているのが普通であるが、多くの楽譜が、ページの紙が横目であった。そのため、ページの破れを修理する場合、ページや表紙の縦目、横目を確認しつつ、和紙の目と合わせていった。

ページの欠損部分は和紙で修理し欠損している形に和紙を切って、欠損の状態を残した。

カサド自身の修理

カサド自身が修理した楽譜が多くある。紙テープ、セロハンテープなどで表紙の背の部分の破損を大胆に修理している。その貼り方はカサドの性格がよく表れている。細かいことは気にしない一気に修理したのであろうと思われる直し方である。今回この個性的な修理の部分を残すように修理を行った。残す方法としては、紙テープを外し、破損を和紙で修理して再度元の紙テープを貼った。また、セロハンテープは紙が変質していたので外し、その上に薄い和紙で修理してテープ跡がわかるようにした。

カサドが触ったであろう、楽譜の右下の黒っぽい指あと、すごいスピードで書き込んだ演奏の指示など、本物に触れながら作業ができる貴重な時間は、修復作業の醍醐味でもある。



ハチャトリアン作曲
「チェロ協奏曲」修復前



修復後(ページの四隅の欠損をつくり、再製本した)

報 告

2016年「ガスパール・カサド没後50年 原智恵子没後15年記念祭」

2016年は、20世紀を代表する世界的チェリストのガスパール・カサドの没後50年と、日本人女性ピアニストの草分け原智恵子の没後15年でした。「カサド・原コレクション」を所蔵する当館は、資料の調査研究と整理を進めていましたが、このたびコレクション目録を刊行し、データベースを公開しました。それに合わせて特別展・シンポジウム・演奏会から成る記念祭を開催しました。

■特別展「デュオ・カサド」

2016年10月17日から2017年1月22日まで、特別展「デュオ・カサド～今よみがえるチェリストガスパール・カサドとピアニスト原智恵子の世界～」を開催しました。



展示は、カサドと智恵子それぞれの足跡にはじまり、ふたりの出会い、そして結婚後に「デュオ・カサド」として行った演奏活動を中心に構成しました。また、夫妻が暮らしたフィレンツェの居室をイメージし、日常の愛用品も紹介、その他、夫妻の書き込みがみられる楽譜や、同時代の音楽家たちとの交流を示す資料などに、多くの方々が興味を示されました。会期中には、ミニコンサートを2回とギャラリートークを5回開催しました。会期中の入館者は、1823名でした。

■記念シンポジウム

10月22日、日本音楽学会東日本支部との共催で、記念シンポジウム「玉川大学教育博

物館所蔵 ガスパール・カサド 原智恵子関係資料の意義 カサド作品の世界初演付き」を開催しました。前半は、この度の目録とデータベース公開についての報告、続いて音楽家の個人資料に精通した研究者や演奏家の方々より「カサド・原コレクション」に対する思いと展望を、様々な視点からお話し頂きました。後半は作曲家の先生をお呼びし、カサドの作編曲技法について、実演を交えながらの解説を行いました。最後は、コレクション中から発見された、カサド作曲の未発表曲・世界初演のチェロ四重奏曲が演奏されました。当日は、学会員だけでなく多くの一般のお客様にもご来場いただき、大盛会となりました。

■記念演奏会

10月23日、玉川大学 University Concert Hall 2016において、記念演奏会を開催しました。当日は、智恵子が所有していたピアノを使用。前半は、カサド・智恵子と縁のあったチェリスト堤 剛氏、ピアニスト中井正子氏が、それぞれ夫妻との思い出の曲を演奏しました。続いて、京都市交響楽団でカサド旧蔵のチェロを弾くドナルド・リッチャー氏と、松川儒芸術学部准教授のピアノで、楽器による「デュオ・カサド」が再現されました。後半は、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の香月圭佑氏と、元東京交響楽団首席のベアンテ・ポーマン氏の2人をソリストに迎え、野本由紀夫芸術学部教授の指揮、玉川大学管弦楽団による、カサド作曲のチェロ独奏付管弦楽曲の演奏で幕を閉じました。



企画展 焼き物大好き！子供作品展

当館と本学芸術学部が連携して取り組んだ「子供未来工芸プロジェクト 焼き物大好きの未来世代育成プログラム」で、標記の企画展を開催しました。将来工芸の作り手・使い手になってもらえるよう、2016年の夏休みに、小学生を対象に〈みる〉（鑑賞）・〈さわる〉（体験）・〈つくる〉（制作）・〈つかう〉（使用）の各段階を通じ、焼き物に親んでもらう取り組みを行いました。プログラムの最終段階に、〈みせる〉（展示）として、参加者の陶芸作品の皿と、各自のご家庭で食器として使用した際の記録写真を展示しました。

2016年10月31日から11月13日まで2週間の会期でしたが、「デュオ・カサド」展との同時開催ということもあり、出品者である小学生や、そのご家族・知人をはじめ、636名の方々にご覧いただきました。また、将来教員を目指す本学の学生の見学も多く、貴重な実例研修の場になったようです。

この企画展は、文化庁支援事業「21世紀鷹峯フォーラム第2回〈東京〉」と題する工芸の祭典の一環として開催したものです。



ミニコンサート

「デュオ・カサド」展の関連行事として、2016年11月13日と2017年1月15日に、チェロとピアノによるミニコンサートを、博物館に隣接する玉川学園中学年校舎講堂において開催しました。チェロはベアンテ・ポーマン氏、ピアノは当館栗林あかね講師です。「デュオ・カサド」のレパートリーであるカサド作品や、当館所蔵資料のカサド自筆譜による作品を、ポーマン氏による軽妙な解説を交えながら、演奏しました。

博物館実習

2016年8月17日から9月15日にかけて、通学課程での博物館実習履修者を対象に、館務実習の受け入れを行いました。24名を3班に分けて各4日間、通常の授業では行えない内容の実習を集中的に行いました。

2017年2月15日から20日まで、本学通信教育部の「学芸員スクーリング」で博物館実習を開講しました。合計29名が受講し、3組に分かれて実習を行いました。

統計（2016年4月～9月）

本館

開館日数 113日 入館者数 2159名

収集

〔資料〕	日本教育史	17件
〔図書〕	和書 155冊	洋書 0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	32冊
	洋雑誌	19冊

資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略 2016年8月～2017年1月）

鈴木 健男 教育史関係資料 1点
矢野 麻里 教育史関係資料 28点
森兼 俊治 学園史関係資料 1点
山田 斉 音楽資料 2点

山田美千代 教育史関係資料 23点
二川 信二 教育史関係資料 21点
石毛 保 教育史関係資料 60点
ありがとうございました

2017年度上半期 開館カレンダー

2017年4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

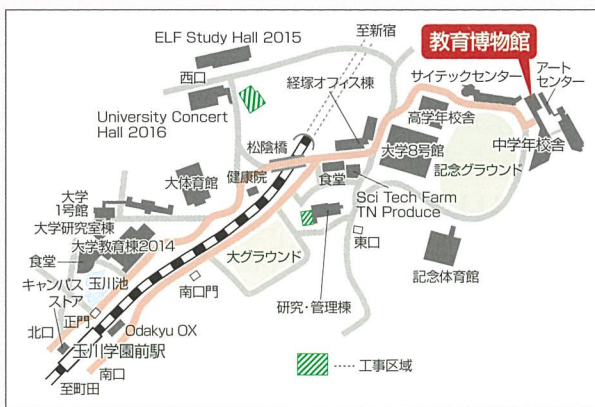
休館日

第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

※ この予定は、大学授業・行事日程等により変更することがあります。
 詳細は当館ホームページをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。

利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間
 (展覧会会期中並びに日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合わせください。)
- 入館料 無料



交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩15分
 駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。
 (来館者用駐車場はありません。また校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車の来館はご遠慮下さい。)

博物館ニュース SHŪ No.48
 2017年3月20日
 編集・発行 玉川大学教育博物館
 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1
 TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654
www.tamagawa.jp/campus/museum/

『SHŪ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐり、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。